

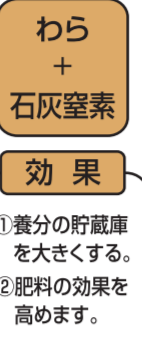
# 加古川良質米栽培ごよみ

令和4年産

普通栽培 (10a当たり)

## 土づくりの三本柱

- ① **秋すき**  
稲わらは秋すきで土と混ぜておくと同熟し、良質堆肥と同じ効果がある。石灰窒素(20kg/10a)施用で稲わらの腐熟促進効果があります。
  - ② **深耕**  
作土層が浅くなっており、地力低下に拍車をかけています。できるだけ深耕に努めましょう。トラクターの速度を落とし、一番遅い回転でロータリー耕を行う。
  - ③ **土壌改良資材の投入**  
根に活力を与え、根ぐされを防止し、倒伏や病害虫に対して強い稲となる。
- 土壌分析等による適切な土づくりを行ってください。  
●レンゲ栽培田には、土壌改良資材を、すき込みと同時に散布しましょう。



## 食味向上のポイント

- ① **玄米のタンパク質含量、アミロース含量を抑える施肥管理を行いましょう**  
※穂肥は出穂15日前までに行う。それ以降の穂肥、実肥は行わない。
- ② **苦土肥料を施用しましょう**  
苦土一番の施用を行うことにより、苦土が光合成に関与し、登熟歩合を向上させます。
- ③ **ケイ酸資材を施用しましょう**  
ケイカル、ミネラルGまたは省力化の「土力の達人」等のケイ酸は、窒素をコントロールし、稲の稈を強くします。

## 育苗のポイント

育苗用培土の使用量の標準的な目安(育苗箱1箱当たり)

◎粒状培土2号 床土: 2kg 覆土1kg  
◎グリーンソイル 床土: 3kg 覆土1kg

**浸種**

種子量の4倍の水を使用。

浸種日数目安  
15℃の場合は6日間  
20℃の場合は4日間

**注意事項**

- ① 停滯水で行う。
- ② 最初の2日間は水交換をしないで下さい。
- ③ 2~3日に1回水の変更を行って下さい。
- ④ 水の交換は静かに行ってください。

**催芽**

ハトムネ状態になるまで浸種し、催芽する。

(ハトムネ状態)

**床土消毒**

床土灌水後にダコレート水和剤400倍液を500ml/1箱に灌注

**播種**

○播種量は催芽もみ 120~130g/箱  
○種子を均一に播種する。  
○覆土(もみが隠れる程度)

**育苗(田植前30日)**

育苗箱は床面に密着させる

遮光フィルムによるトンネル育苗

80%遮光フィルム…幅230cm(シルバーポルトク)厚さ……0.05mm

※灌水溝に多く水をためると発芽不良をおこす。特に育苗初期には水をためないで下さい。

**育苗中期管理**

- 播種後、遮光フィルムにより完全密閉したままの状態を管理する。
- 播種7~10日後、2.2葉期苗になれば遮光フィルムを取りはずす。
- 遅れると、徒長苗になるので、右図を参考にして、よく観察し、適期に遮光フィルムの取りはずしを行う。

取りはずし適期苗

第一葉 第二葉

3cm以下 0.5cm 鞘葉

品種	5月			6月			7月			8月			9月			10月					
	旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
生育のめやす	15日頃			12日頃			24日頃			10日頃			26日頃			10日頃					
	胚乳 胚芽			中干し(7/中旬~末頃)			間断灌水			1.5mm幼穂長 2.0mm			出穂期			出穂期					
水管理																					
	播種(5/15頃)			田植えの適期は6月8日~14日頃が良いでしょう。			有効分げつ決定期			幼穂形成期			出穂期			成熟期					
作業	播種			田植			追肥			穂肥			防除			刈取り					
	(5/15頃)			(6/10頃)			(7/3頃)(7/10頃)			(8/8頃)			(8/10頃)			(10/7~16頃)					
防除作業	※農薬の飛散防止の為に、粒剤を使用しましょう。			箱防除の徹底 いもち病・ツマグロヨコバイ・ウンカ類・ニカメイチュウ対策 ツインターボ フェルテラ箱粒剤 50g/箱 (またはフルターホ箱粒剤50g/箱)			ジャンボタニシ対策 田植後~収穫60日前 スクモン粒剤 4kg/10a			紋枯病からカメムシ・ウンカ類の対策 ゴウケツモンスター粒剤 3kg/10a フルターホ散布田については省略することが出来ます。			カメムシ・ウンカ対策 スタークル粒剤 3kg/10a または スタークル豆つぶ 250g/10a ※ゴウケツモンスター散布の場合は必要ありません。			ウンカ対策 トレボン粒剤 3kg/10a (収穫21日前まで)			刈取り(10/7~16頃)		
	赤字は重要防除			※苗をJAで購入される方は、薬剤が既に入っておりますので、ご自身の散布は必要ありません。												出穂後45日を目安にする(籾の色が90%黄熟)					
作業記入欄																					



**要注意 ジャンボタニシ対策**

- ① 稲刈り後や厳冬期に、ロータリー回転を速く、走行速度を遅くして耕耘しましょう。
- ② 田面は均平に、田植後2週間は浅水(水深4cm以下)で管理しましょう。
- ③ 水口に網を張り、隣接ほ場や水路からの侵入を防止しましょう。
- ④ ほ場や水路で貝や卵を見つけたら、すぐに補殺しましょう。
- ⑤ 薬剤は温水時に散布し、散布後は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

**病害虫防除の省力化の為、箱処理剤は必ず施用しましょう。**

**より安全な栽培のために**

- ① 風の無い時を選んで作業しましょう。
- ② 露のあるときの散布は避けましょう。
- ③ 農薬散布のときは必ずマスクをしましょう。
- ④ 住宅付近の農薬散布は十分注意してください。
- ⑤ 稲作気象台情報を参考に防除を行ってください。
- ⑥ 農薬使用については最新の登録情報を確認してください。

**施肥基準(10a当り)**

**分施肥体系**

肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	成分総量		
						N	P	K
アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
リンスター	(40)	(40)				(12.0)		
硫燐48号	30	20	10			4.8	4.8	4.8
苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
ニューかん太郎有機	30				30	3.6	1.8	3.6
成分計						8.4	6.6	8.4

**省力体系**

肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	成分総量		
アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
リンスター	(40)	(40)				(12.0)		
LPコート444E-80(140日タイプ)	60(50)	60(50)				8.4(7.0)	8.4(7.0)	8.4(7.0)
タキコート4771AE(120日タイプ)						8.4(7.0)	4.2(3.5)	4.2(3.5)
成分計						8.4	8.4	8.4

(注意事項)  
※LPコートまたはタキコートは代かき直後にむらなくいねいに施用して下さい。  
※出穂10日前頃に肥切れの稲は、硫燐48号を10kg程度施用して下さい。  
※省力体系でも肥料切れをおこす場合がありますので、ほ場条件等により施肥して下さい。  
※肥料のやり過ぎは、病害虫の発生や食味の低下の原因となるので注意して下さい。  
※( )のリンスター、苦土一番を使用する場合は、ほ場の条件等により施用して下さい。  
※ほ場の条件等により、施肥量は調整して下さい。  
※葉色の度合により、追肥を行って下さい。

**除草体系(10a当り)**

※初期剤+中期剤の2回散布により確実な除草を行ってください。

時期	剤名	散布量	効果
初期	田植直後~田植後5日	シヨキニーフロアブル 500ml	初期除草
中期	田植後7~14日	エンペラーフロアブル 500ml	中期除草
後期	田植後25~40日	エンペラージャンボ 250g	後期除草

**主要な雑草**

- ホタルイ
- シロネ
- セ
- クサネム
- イヌビエ

(注意事項)  
※使用時期については、必ず商品ラベルをご確認ください。  
※キシュウズメノヒエ(ヨバイ草)、セリ等が多発している田では、耕起前にラウンドアップマックスロードで、事前処理してから、耕起作業を行ってください。  
※除草効果を高めるため、適期散布して下さい。  
※除草剤使用後、3~4日間は水深が3~5cmに保たれるように注意して下さい。  
※投入剤(エンペラージャンボ)を使用する際は、浮き草・藻類の発生があると拡散しないので発生する前に散布して下さい。  
※雑草が残った場合は、クリンチャーバスME液剤、セカンドショットSジャンボMX、または、ヒエクリーンバサグラン粒剤で処理して下さい。

◎ 栽培履歴を記帳しましょう。 ◎ 「無登録農薬」を農産物に使用することは絶対にやめましょう。